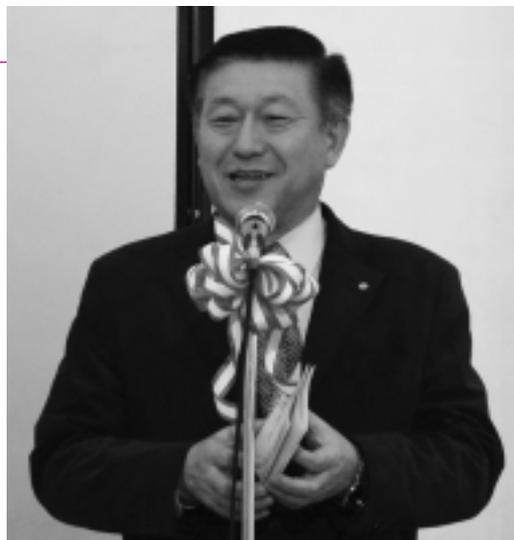


秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。
<http://www.city.akita.akita.jp/>

市長のほっとコラム

市長 佐竹敬久



わか杉国体の感謝状贈呈式で

欲は、ほどほどに

人間にはさまざまな欲があります。日本人にとっては、仏教の教えにある、いわゆる五欲が一般的なものといえるでしょう。睡眠欲、食欲、財欲、色欲、名誉欲の五つです。

このうち睡眠欲だけは、生命を維持するための一定の睡眠は欠かせませんので、睡眠をむさぼることは感心しないものの、とりたてて問題にされることのない欲です。



食欲は、生命を維持するために必要不可欠なものである反面、欲望の赴くままの飲食は健康を害しますので、腹八分目、抑え気味にする方がよい部類に入る欲なようです。特に今の日本は飽食の時代、国と自治体では多額の経費をかけてメタボリック対策を進めようとしている折、国民の関心が高まっている欲でしょう。残りの三つの欲は少しばかり複雑です。いずれも人間として生まれた

からには、あつてしかるべく欲ではあるものの、その程度が問題です。



食欲の場合には、度が過ぎて病気に掛かった場合の保険医療費分は他人に迷惑がかかるという形にはなるものの、健康を損ねたツケの大半は自分自身に跳ね返ります。

しかし財欲の場合には、個々人の特性や職業などの上で、自らの向上心や努力の結果としての範囲に収まる場合には文明社会の前進や社会の円滑化につながる方向に作用するものの、金もつけ第一、金の亡者となつて金に目がくらむようになると、一転して犯罪行為や、経済活動の足を引っ張るなど、社会や他人に損失を与えることとなります。

色欲の場合には、人間が潜在的に持っている種の保存に付随した自然的欲求から大きく外れない限り、人類の存続にかかわる不可欠なもので

すが、これも程度を踏み外すと極めてやっかいなものとなり、人の心身を傷つけたり、社会にいらぬ害毒を流すはめになります。

名誉欲の場合には、度を越した財欲、色欲ほどに直接的、物理的な害を及ぼすことはないものの、とかく名誉欲が過ぎると、人と人との摩擦や、社会に不快感を与えるなど、迷惑行為につながります。



およそ無い物が無いというほど物が有り余り、その気になれば大概の欲は満たされる現代社会は、昔に比べ欲というものには十分に応えているはずですが、キリがないのが欲というものの定めなようです。

いずれにしても、誰しも煩惱である欲から完全に離れることはできないものの、ほどほどが何より。かく言う私の場合、有り余る食欲の始末に苦悩している毎日です。



火災死亡事故が多発しています！

自分を、家族を、火災から守る！ 住宅用火災警報器の設置を

この冬、県内で火災が相次いで発生しています。秋田市内でも昨年12月から今年2月中旬までに25件の火災が発生し、死者も4人出ています。

住宅火災による死亡原因で最も多いのが逃げ遅れです。特に夜10時から翌朝6時までの就寝時間帯は他の時間帯に比べて死者が1・5倍になっています。火災に気が付かず、寝ている間に煙が充満し、一酸化炭素中毒で亡くなるかたが多いのです。

平成18年6月、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。寝室と階段(寝室が2階以上にある場合)に火災警報器を設置することで、寝ている間の火災の発生に気づき、避難経路を確保することができま

す。「うちは大丈夫」は禁物です。一日も早い設置をお願いします。

お問い合わせは、市消防本部予防課へどうぞ。

(823)4247

住宅用火災警報器は、消防用設備を取り扱う販売店やホームセンターで購入できます。価格は5千円前後です。町内会などでの共同購入は、悪質訪問販売対策としても有効です。共同購入については消防本部予防課にご相談ください。



臨時寄港したロシアの貨物船にコンテナを積み込みました



貨車からコンテナを降ろします



環日本海シリアンドレール実証実験 秋田港をロシア貿易の拠点に



自動車部品をコンテナに積み込み、陸路秋田へ出発



国土交通省東北地方整備局が中心となり、秋田港をモデルとした「環日本海シリアンドレール構想」の検討が行われています。これは、「シー(海)」と「レール(線路)」、つまり船と鉄道を使って物を運び、秋田港からロシアやヨーロッパ方面へ輸出するルートを作ろうというものです。

先月、コンテナを仙台から秋田港へ鉄道輸送したのち、船でロシアに運ぶ実証実験が行われました。今回の実験では、鉄道から船に積み替える際の課題、輸送中の振動や衝撃の影響などを確認しました。

実験ではロシアのポスト・ツナイ港まで輸送しましたが、ポスト・ツナイ港はシベリア鉄道に直結していることから、ここからさらに鉄道でロシア各地、ヨーロッパへ輸送することも考えられます。

今後は有識者による委員会などで、実現に向けての課題が検討されます。